

氏名	洲 脇 謹 一 郎		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1538 号		
学位授与の日付	昭和59年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	ヒト膵液，胆汁中の secretory component および免疫グロブリンの研究		
	第1編 ヒト膵液，胆汁中の免疫グロブリンおよび secretory component		
	第2編 膵疾患における十二指腸液中の secretory component および免疫グロブリンの分泌動態について		
論文審査委員	教授太田善介	教授 木村郁郎	教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

分泌性免疫グロブリンは Tomasi らにより発見されて以来，その局所免疫としてののたらしが注目されてきたが，ヒト膵，胆道系については不明な点が多い。第1編では正常ヒト膵液，胆汁中の secretory component (SC) の存在様式等の基礎的検討を行った。ヒト膵液，胆汁中の SC は IgA dimer と結合した S-IgA (11S) であり free SC および S-IgM の存在を示唆する結果は得られなかった。第2編では PS test で得られた十二指腸液中 SC および免疫グロブリン (Ig) の膵疾患における意義について検討した。SC および IgA 濃度は膵癌，慢性膵炎で他膵患群に比し高値であり，さらに IgA 濃度は secretin 刺激後10～20分，20～40分の分画で，膵癌において慢性膵炎に比し有意 ($P < 0.02$, $P < 0.05$) に高値であった。IgM は急性膵炎において他膵疾患群に比し有意に高値の分画が多かった。膵外分泌能と膵液中の SC および Ig の分泌，さらに SC と Ig の分泌には関連性がなく，これらの分泌は異なった機序により調節されている可能性があり，また膵液中 Ig は単なる炎症性浸出でないことが示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究はヒト膵液・胆汁中に免疫グロブリンおよび secretory component (S,C) が

存在することおよび S,C, と IgA 濃度は膵癌・慢性膵炎で上昇することを明らかにした臨床的に価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。